平成23年 まちなかが生まれ変わります

厚生会館は、「平成の公会堂」に

築後約50年で老朽化の進む厚生会館は、建て替えで「平成の公会堂」に生まれ変わります。
安い料金で何にでも使える厚生会館のいいところはそのままに、ホールやアリーナは今よりもさらに広く、使いやすく。市民のアイデアと最新の設計デザインでパワーアップします。

公会堂、屋根付き広場、市庁舎の三位一体

「平成の公会堂」、屋根付き広場、市庁舎という三つの施設がひとつに融(と)けあった空間。市民やＮＰＯ団体などが活発に交流し、各地域の祭りやイベントの出張ステージにもなり、人々の出会いとにぎわいを生み出す市民の広場をつくります。
インターハイの壮行式や姉妹都市の交流団のセレモニー、市役所に用事で来る人、市役所で働く市職員。まちなかに人が集まり、にぎわいが生まれます。

ゆったり駐車場を十分に確保、利用は無料に

現在より150台分多い500台分の駐車場を整備し、市役所利用者は無料にします。一台一台の駐車スペースは幅を広く取り、ラインも二重に引いて止めやすくします。

幸町の現本庁舎は耐震改修し、有効活用

市役所の本庁舎には、いざというときの災害対策本部として「災害時にも機能は決して停止しない」という高い耐震性が求められます。幸町の現本庁舎をこの水準に耐震改修すると、費用は20億円もかかります。
一方、公民館などの建物であれば、そこまで高い耐震性が求められることはありません。改修費用も５億円と安くあがります。したがって、幸町の現本庁舎は費用を低く抑えた耐震改修を施し、中央公民館などに有効活用します。

通常なら105億円かかるところ、今なら35億円

通常、行政機能の整備に国の補助はありません。しかし、今なら国の手厚い支援があります。
現本庁舎にはいずれ建て替えの時期が来ます。その時、国の支援はありませんから市民の負担は105億円にも。ところが、今なら、この先50年使える市庁舎を、35億円で整備できるのです。

全国が注目！
21世紀の市民協働型シティホール

全国千余りのまちづくり計画の中から優れた取り組みを表彰する「まち交大賞」で、長岡市の計画が最高賞の「国土交通大臣賞」を受賞しました。長岡市の先進のまちづくりが、全国から注目を浴びています。
将来を見通したまちづくりは、「米百俵」のまち長岡の伝統。未来指向のまちづくりにご期待ください。

今がチャンス。ソフト充実が課題

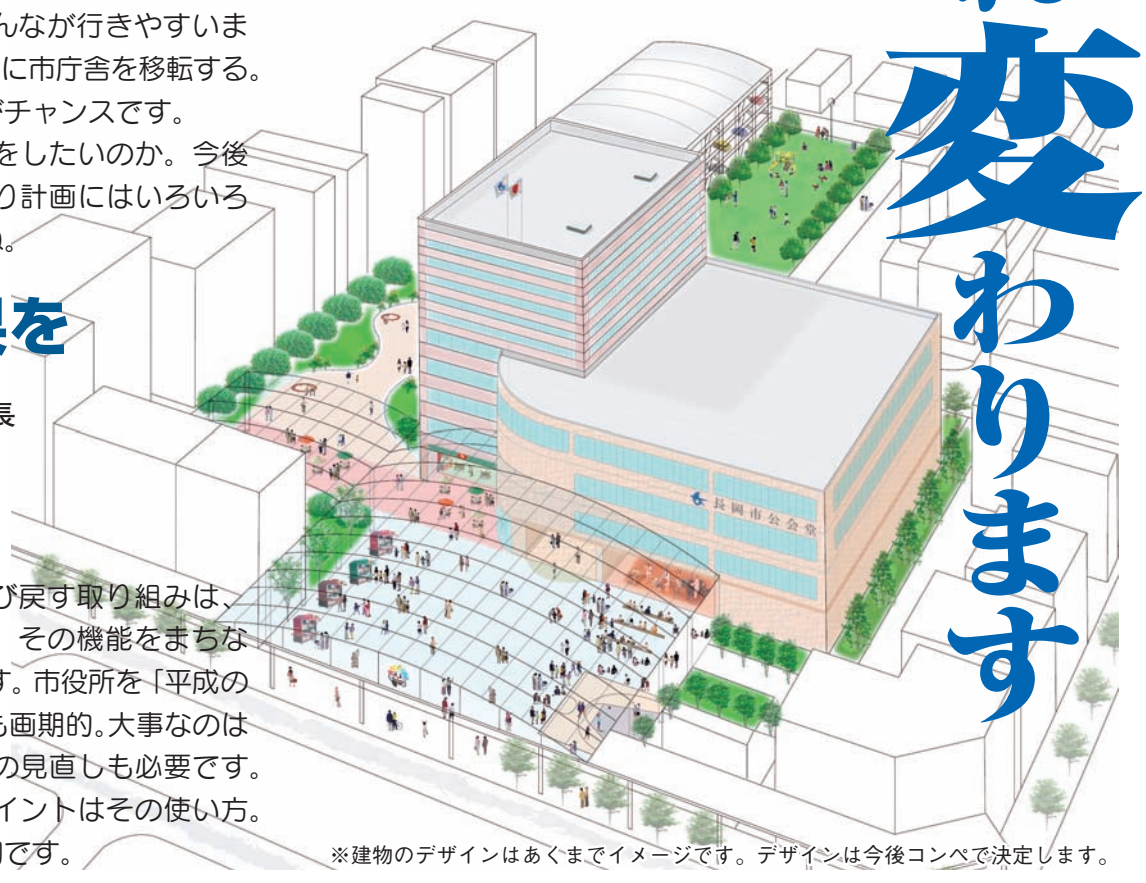
東京大学
先端科学技術研究センター教授
大西　隆さん

まちの活性化に向け、みんなが行きやすいまちなかに広場を整備し、そこに市庁舎を移転する。このアイデアは、ユニークでとてもいい。やるなら今がチャンスです。
市民が集まるだけでなく、そこで何ができるか、何をしたいのか。今後はソフトの充実が課題になります。長岡市のまちづくり計画にはいろいろな人の声が反映されていて、手作りの良さがありますね。

まちなか連携で波及効果を

中心市街地構造改革会議副座長
長岡技術科学大学教授
中出文平さん

中心市街地に市役所を呼び戻す取り組みは、全国的にも例がありません。その機能をまちなかに分散すれば、まちづくりへの効果はさらに高まります。市役所を「平成の公会堂」、屋根付き広場など多様な機能と併設する試みも画期的。大事なのはそれぞれが連携し波及効果をもたらすこと。公共交通の見直しも必要です。
まちづくりというと建物の話になりがちですが、ポイントはその使い方。市民が知恵を出し合って、前向きに取り組むことが大切です。



※建物のデザインはあくまでイメージです。デザインは今後コンペで決定します。